

SSC 活動報告書

法人名	一般社団法人 SAKATA SCHOOL CLUB	作成者	代表理事 西尾 博樹
作成日	2025年8月5日	対象期間	2024年8月1日 ~ 2025年7月31日
件名	一般社団法人 SAKATA SCHOOL CLUB 活動報告書		
報告内容	1. 各競技団体情報収集と改革意識 2. 保護者からの情報収集 3. 酒田市の部活動改革の方針 4. 酒田市及び酒田市スポーツ協会との交渉 5. 市外、県外の改革状況 6. 山形県からの助言 7. 活動成果		
今後の方向性	8. バレーボール、サッカー、野球（硬式）競技との協働関係 （陸上はすでにクラブチームが立上っている） 9. 酒田市との協働運営断念 10. 民間運営への切り替え 11. 今後について 12. 総括		
資料	➤ 別紙—① : 競技団体及の状況 ➤ 別紙—② : 酒田市部活動改革の方針 ➤ 別紙—③ : 意見の集約イメージ図		
備考	＜ 賛同協働競技団体 ＞ バレーボール・サッカー・野球・陸上（カヌー競技立上げ希望）		

【 活動報告 】

1. 各競技団体情報収集及び改革の状況

※ 別紙資料参考（別紙－①）

2. 保護者からの情報収集

※ 多くの競技より約 103 名ほどの保護者からの主な意見

- 1) 練習参加時の送迎に苦心している
- 2) 土日祝の強制参加があり辛い
- 3) 適正な指導者がいない
- 4) 保護者会（保護者がクラブ運営）運営に限界を感じている
- 5) 月謝や活動費を払うのが厳しい
- 6) 練習会場確保が困難（保護者が行っていることが結構ある）
- 7) 総合型地域スポーツクラブの練習会場確保が優先されているように思える

3. 酒田市の部活動改革の方針

※ 別紙資料参考（別紙－②）

- ・ 基本的に現行の総合型地域スポーツクラブを活用し、学区（学校）ごとに活動を進める。

<デメリット（私見）>

- ① 国や県は学校単位では推奨していない。
- ② この手法のデメリットとしては、やりたい競技がなく、子供の選択肢を狭めてしまう。
- ③ 現行の状況では、学区ごとに保護者が運用するクラブが主体となり、指導者確保や継続的な運営が困難となる。
- ④ 指導者確保が困難。
人材バンクを利用するようだが、適正や競技側からの要望に沿った人材はいない様子。

[総合型地域スポーツクラブの基本的考え方]

男女年齢問わず、地域の皆がスポーツに携わり、スポーツで地域活性化を目指すことが目的。

4. 酒田市及び酒田市スポーツ協会との交渉状況

- ・ 部活動改革に加え、競技団体やスポーツ協会の改革が必要との意見があった。
- ・ 教育委員会からは提案した内容での改革は必要ないとの回答があった。
- ・ 市長（市長との最終交渉 6 月 9 日）やスポーツ振興課からは、一つのクラブへ加担することは行政としてできないと最終回答。（SSC は複数の競技で行うことに理解は示されなかった）
- ・ 保護者が苦心している練習への送迎について、スクールバスなどの活用でフォローすると市長より確約された。
- ・ スポーツ振興課からは、どのような立場で交渉に来ているのか？とのことで、立場が無いと話せない状況に陥った。（1 月 30 日に交渉は打ち切り）
- ・ スポーツ協会は、酒田市から指示があれば協力はできるが、無ければ動けないとの回答。しかし、一定の理解は得られた。
- ・ 4 月 29 日に部活動協議会が行われ、スポーツ庁改革委員の石塚氏の講演が行われ、その後酒田市より部活動改革について方針説明があった。

内容は別紙—②の概要となる。

競技団体、保護者、学校、競技関係者が出席され、いくつかの質問がされた。

① （保護者から質問）

総合型地域スポーツクラブで改革を行い、学区ごとに競技をもつと示されたが、子供がやりたいスポーツが学区になく、どう対応したらよいか？

→ （酒田市の返答）追って回答する。

② （私から質問）

昨年の出生数が 365 名、この子供達が中学生になるときは、現中学校は 7 校あるが、1～3 校になることを想定しての改革はしているのか？

→ （酒田市の返答）これから検討する。

私見になるが、これからの酒田市の状況を踏まえての改革内容ではなく、まず目先だけを解決していくような感じに捉えられる。

現に練習環境や指導者を求めて、市外へ出ている子供、学区外へ行っている子供

が多くなっている。

ここへの危機感が薄いように感じている。

- ・ 競技団体においては、
すべてではないが、競技団体との連携がとれた。各競技団の事情、考えが聞けたが、改革へ前向きな競技と改革は不要、現状のままで良いとの意見に分かれた。競技人口の減少率が高い競技、競技人口の少ない競技に改革不要との声が多かった。
全体的にチーム競技より個人競技に危機感が薄いように感じている。

5. 市外、県外の改革状況

- ・ 鶴岡市はクラブ化が進み、立ち上げたクラブのコーディネートや練習会場確保などに現在注視している様子。
- ・ 遊佐町は指定管理を民間に委託し、幅広い活動を展開している。
- ・ 庄内町も民間へ委託している。
- ・ 6月20日に全国部活動地域展開カンファレンスがあり、様々な事例や手法が発表された。

成功事例においては、多くの自治体が民間との協働で行い、お互いの強みを生かした内容で進め前進している。

千葉県印西市、福岡県宗像市など事例は参考になった。

特に宗像市は酒田市と同じくらいの人口であるが、参考になる良い活動をしていると感じている。

6. 山形県からの助言

SSCの考えには賛同しているが、まずは酒田市が動かなければ県は動けない。

酒田市がやれないのであれば、他の市町村へ呼びかけ、実証事例をつくることもひとつ、とアドバイスを頂く。

11月に県で部活動地域展開についてシンポジウムを行うので、ここで講演を行い、県内へ広めていく予定。

7. 活動成果

- ① 国からは自治体、学校、クラブとの三位一体の活動が打ち出されたが、残念な

がら酒田市は協働活動とはならなかった。

しかし、高校校長会や中学校、高体連、中体連（一部）との連携で今後の活動の方向性が共有できた。

- ② 保護者負担軽減も重要課題であるが、保護者のクラブ運営、土日祝の強制参加取りやめまで叶わなかったが、一番声が多かった練習時の送迎問題については、スクールバスの活用について市長より快諾を得た。
- ③ 酒田市において、人口減少、出生数の減少に伴った今後の計画が無かったところには大きな風穴を開けられた。
- ④ 今後酒田市からスポーツへの支援金が減少すること、子供の減少などを考えると競技団体の改革も必要である。その元締めであるスポーツ協会の改革は必須となる。ここは酒田市が今年度中に方針を出す市長より説明があった。
- ⑤ 県、競技団体（賛同団体）、保護者、高体連、中体連、校長先生の会、企業各社からも多くのご意見を頂き、今後の運営や運用の方向性が定まった。

※ 別紙参考資料（別紙—③）

【 今後の方向性 】

8. バレーボール、サッカー、野球（硬式）、陸上競技との協働関係

（陸上はすでにクラブチームが立上っている）

→ 上記の競技団体は競技人口減少、競技力低下などで危機感を多く持っている。

陸上はすでにクラブチームが立上り、理想の形で遊佐町と運営がされている。

他の3競技で連携して部活動地域展開へお互いに協力していくことになる。

- ・ バレーボール：女子はアランマーレジュニア、男子はVC酒田を中心に連携していく。
- ・ サッカー：鶴岡への流出を防ぐため、送迎や練習環境（専任指導者）の整備が急務、地域や競技団体との連携で進めていく。
- ・ 野球：競技人口の減少、市外への流出もあるが、まずは硬式と軟式の協議により、今後の方向性を示すことが急務。
- ・ また、カヌー競技も立上げの希望があり、連携して進めていく予定。

9. 酒田市との協働運営断念

酒田市（最終は市長より）からは一法人だけに肩入れすることができないとの回答があったので、酒田市と協働で行うことは断念。

まずは協働できる競技で実証し、各競技のクラブチームを立ち上げるように進めたい。

その中でも学校やスポーツ協会とは共有し、競技団体とも円滑に進めていきたい。

10. 民間との協働運営への切り替え

行政からの協力ではなく、他の力をお借りして進めていくが、やはり練習会場は行政のサポートが必要。

総合型地域スポーツクラブが優先されるのではなく、他の競技も同等の扱いで練習環境を公平に使用させて頂くことように依頼する。

また、私が創設したアランマーレとの連携により、指導者確保やクラブ運営のノウハウも共有化していきたい。

また、学習塾とのタイアップなど、これから子供が少なくなることで経営が厳しくなる法人や団体とも連携していきたい。

11. 今後について

酒田市と酒田市スポーツ協会との協働関係で進めていくことが途絶えたことを踏まえ、別路線で進めていくことが必要となる。

県外での成功事例が多くなってきているが、多くは行政が中心となり、行政ができないこと民間へ委託し、スピード感をもって動いている。

特に行政のトップが動いているのが大きく、また地域展開を地域づくりに結び付けているのが好事例となっている。

すぐにクラブチームを作ることはできるが、現行の状況で立ち上げてみただけのクラブチームになり、再度指導者や資金、保護者負担などの問題が出てきて、失敗の繰り返しとなる。

数年後、学校数も減り、競技者や愛好者も大きな減少となる。

将来展望も踏まえて、継続競技や楽しむスポーツ環境の整備をすることで官民一体となった活動が求められる。

- 1) まずはバレーボールからスタート、その後サッカー競技をスタート、野球においては硬式と軟式との協議による新たな行動を検討する
- 2) 中学から高校へとつなげていくためにも、高校との連携も強化していく

- 3) 中学校、高校との連携
- 4) アランマーレとの協働事業
- 5) 指導者の人件費確保（SSCの規定に合った指導者は候補できる状況）
- 6) 2年間、指導者人件費を投資（以降は会費や協賛で賄う）
- 7) 酒田市の学区ごとの総合型地域スポーツクラブを廃止し、学区ではなく各競技団体がサポートする中でクラブチームを立上げ、楽しむスポーツを生涯スポーツとして総合型地域スポーツクラブで受け持ち、多くの子供達がスポーツに参加できる環境構築、提供することで、健全で活性化していく地域づくりへ寄与していく。

12. 総括

2030年までに、中体連の競技9種目が無くなる。以降も削減する競技は出てくる。そこも見据えた運営をすることが、子供達の将来、そして保護者や教員の負担軽減へとつながるはず。

SSCの考えである、

- ・ 未来ある子供達へ、楽しむ、競う、挑むスポーツ環境の提供
- ・ 適正な指導者の確保と提供（ガバナンスの元）
- ・ 保護者の負担軽減（送迎や土日祝の強制参加廃止） ※保護者働き方改革への寄与
- ・ 教員の負担軽減

ここまでの子供達の様子（市外流出なども含め）、そして保護者の苦勞、教員の働き方改革を見る限り、この考えは絶対に外せない。

これからもSSCは子供達や保護者の要望に沿った活動を邁進していく。

これが地域の活性化へもつながるはず。

(追記事項)

アランマーレ山形の部長と副部長（兼GM）が7月に社内事情や体調不良で退団となった。

- ・ SVリーグ継続
- ・ SVライセンス取得
- ・ 事業化（プロ化）
- ・ SV規定のアリーナ確保

SVリーグでやっていくためには上記のことが必要であるところ、実務ができるスタッフが不在の状況。

そこへプレステージ・インターナショナルより復歸の要請があった。

アランマーレ創設からチームを作ってきた者として心配なところ。

部活動改革の事業を継続させて頂くことを条件に復歸をする方向で進めている。

プレステージ・インターナショナルのご理解により、法人は継続し、部活動改革事業は引き続きアランマ
ーレで行っていく。

以上